

2022年6月6日

三菱重工業株式会社

三菱ロジスネクスト株式会社

国内初、マイナス 25℃冷凍倉庫対応レーザー誘導方式無人フォークリフトを共同開発 全国の三菱ロジスネクスト販売店で 6 月から販売開始

三菱重工業株式会社（以下、三菱重工）と三菱重工グループの三菱ロジスネクスト株式会社（社長：久保 隆、本社：京都府長岡京市、以下、三菱ロジスネクスト）は、マイナス 25℃冷凍倉庫対応レーザー誘導方式無人フォークリフト（レーザーAGF）※1「PLATTER Auto 冷凍倉庫仕様(1.5～3.0 トン積)」を、株式会社ニチレイロジグループ本社（社長：梅澤 一彦氏、本社：東京都千代田区 以下、ニチレイロジグループ）と共同開発しました。2022年6月6日より全国の三菱ロジスネクスト販売店を通じて、販売します。

マイナス 25℃クラスの冷凍倉庫においては霧や結露がレーザーAGF 運用の障害となるため、走行ルート上の床面に磁気棒を敷設する磁気誘導方式のAGFを導入する必要性がありました。今回の新機種は、マイナス 10℃クラス対応のレーザーAGF ※2 をベースに、磁気誘導方式 AGF で培った冷凍環境対応部品、マイナス 25℃クラスに対応した電装品やセンサーを採用し、防錆対策を実施した車両での実証実験などを経て国内初の製品化を実現したものです。これにより、従来からの課題である低温環境下における作業者の負担や、慢性的な人手不足による業務稼働の不安といった課題を解決します。

三菱ロジスネクストは 2020 年から、冷凍倉庫における業務革新に取り組むニチレイロジグループと共同で、冷凍冷蔵倉庫に対応できるレーザーAGF の開発を進めています。ニチレイロジグループの株式会社ニチレイ・ロジスティクス関西（本社：大阪市）の大阪埠頭物流センターにおいては、冷凍倉庫内での活用を想定した PLATTER Auto2 台による実証実験や低温環境下での稼働試験などを実施してきました。

三菱重工と三菱ロジスネクストは今後も、AI（人工知能）や機械学習を用いた自律化・知能化ソリューション「ΣSynX（シグマシンクス）※3」の物流機器への搭載など、グループの総合力を生かした製品の開発に取り組んでいくとともに、物流業界のさまざまな課題に対して最適なソリューションを提供していきます。

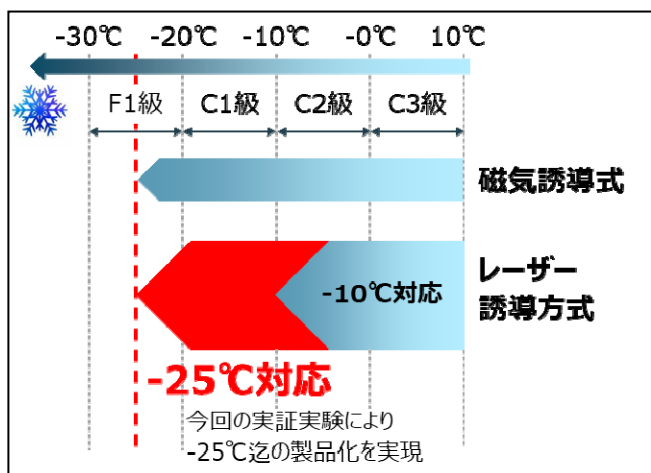
※1 レーザースキャナで反射板をスキャンし、車両の現在地を認識しながら走行する AGF（Automated Guided Forklift：無人フォークリフト）です。

※2 マイナス 10℃クラスに対応できる冷凍冷蔵倉庫型レーザーAGF について、詳しくは以下のプレスリリースをご参照ください。

<https://www.mhi.com/jp/news/210614.html>

※3 三菱重工グループ製品全体を AI で自律化・知能化するソリューションコンセプトで、「予測計画」「遠隔制御」「人機協調」「システムプラットフォーム」「検証評価」「遠隔保守」といったコア技術から構成されています。詳しくは以下の動画をご覧ください。

<https://m.youtube.com/watch?v=HVSjbEjACE8&feature=youtu.be>



冷凍冷蔵倉庫温度帯別での無人フォークリフト対応実績



PLATTER Auto 冷凍倉庫仕様(1.5~3.0 トン)

以上

担当窓口：三菱重工業株式会社 物流・冷熱・ドライブシステムドメイン
 三菱重工業株式会社 総合研究所・ICT ソリューション本部
 三菱ロジスネクスト株式会社 物流ソリューション部